

陸軍省日誌明治七年第二十三號

○三月八日

御沙汰書寫

叙正七位

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
川上操六	永持明德	徳久元成	岡村宣温	島山義質	中島勝良	筒井義信	井石公毅		

日誌

陸軍省

0312

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

河上繁榮	吉田晚稼	藤井一虎	山宮忠誨	内田一心	信太正脩	堀場精一郎	上領頼方	江見重明	竹橋尙文	井上直貞	淺野頼淹
------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------

同	陸軍兵學少教授	高柳致知	平田時寶
同	同	小管知淵	
同	陸軍裁判權評事	伏谷 惇	
同	同	多田正英	
依願免本官	陸軍二等軍醫正	高橋正純	
達書寫			
陸軍々醫試補申付	元軍醫試補	佐々木鶏肋	
補十四等出仕	十五等出仕	中谷 浩	
補兵學寮十一等出仕	幼年學校一等專業生	成 章	
任裁判少録事	裁判所十二等出仕	山本徳充	

陸 軍 省

日 記

依願免職務

陸軍少尉試補 小原隆成

同

元軍醫試補 山本尙綱

第一經營部へ達書寫二通

第四局第二課中木石掛之者自今其部被管ニ相定候條此旨相達候事

舊一橋邸東門前空地之儀別紙之通正院伺濟ニ付東京府ヨリ請取方可取計此旨相達候事別紙略之

調馬廐ヨリ伺書寫

當廐馬學蹄鉄兩生徒入營休暇等是迄兵學寮ニ於テ

取扱來候通以來身元引請人ヨリ所屬府縣之調印ヲ以テ當麻ニ當テ願出候様致度此段相伺候也三月七日追テ右生徒入營之節ハ其都度々々伺出候得共休暇等之儀ハ當麻限リ指許候様致度は亦相伺候也

指令

伺之通

但父母重病其他不得止事故有之飯省之時ハ其願手續等本文之振合ヲ以テ滞郷日數二週間麻長限リ許可可致事

○三月九日

日誌

三

陸軍省

0316

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

叙正七位

御沙汰書寫

山根信成	黒田久孝	頼野克	兒玉通良	伊東祐高	別府信夫	川崎知顯	村田經芳	井上光	澁海通直	栗屋則傲
------	------	-----	------	------	------	------	------	-----	------	------

L182

0317

日誌	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四													
泰正	宇都宮茂敏	三原經是	勝田四方藏	知識兼治	風間繁成	山本路卿	大寺安純	平山勝全	高山則通	大原里賢	天野貞省	沖原直克	

8180
4160

正院へ届書寫

同 同 同 同 同 同 同 同 同

任 陸軍中尉

同 陸軍少尉

日高誠賢
高橋維則
平佐是純
渡邊 潔
真鍋 斌
奥田賢英
竹田寶行
横井時儀
天岡直香
日高次郎

征討參軍陸軍中將山縣有朋御用之都合ニ寄り暫時
滯坂御用相濟次第歸京候様相違候旨征討總督ヨリ
申越候ニ付此段御届申候也

違書寫

造兵司分課被免第一局
第六課分課被仰付

陸軍大佐

原田一道

馬醫生徒教官兼勸被仰付

陸軍二等軍醫正

三浦煥

補十二等出仕

原田忠夫

同

坂元常孝

補十三等出仕

紙幣寮十三等出仕

平澤道次

補十四等出仕

中村彌

一 志 二 五 一 壘 臣 旨

0320

十
三
一
五
十

同
補十五等出仕
中西喜一郎

任兵學中屬
飯塚正行

補兵學寮十二等出仕
兵學寮十一等出仕
原胤列

補兵學寮十四等出仕
小倉義信

補裁判所十五等出仕
酒井秀之丞

局臺寮所司等ヨリ地所家屋等之儀ニ付申立候節ハ
淺村成幸

自今地方ニ關涉ノ分ハ圖面四葉宛本省限リ施行ノ
分ハ圖面二葉宛差出可申此旨相違候事 第三百三十三號

東京領臺ヨリ伺書寫

犯罪人糺問及ヒ處斷ノ儀ニ付營所ニ於テハ取扱振
別紙宇都宮營所ヨリ伺出候間何分御指揮被下度此
段相伺候也 二月十七日
別紙

明治六年二月十八日日本省布達中犯罪人等級少尉
以上相當ノ者ハ云々當時十等以上ヲ以テ少尉以
上相當トシ現今ハ少尉ヲ奏任トス而シテ其等級九
等相當タリ然レハ陸軍出身ノ文官九等以上ノ者
ハ尉官犯罪ノ條例ニ依リ十等以下少尉試補軍醫
試補ノ如キハ直ニ糺問推鞠其罪狀ヲ具シ主任
主理ノ擬刑所見ヲ付シ裁決ヲ本臺ニ仰キ可然哉
一 罪犯所置條例改正其營所佐尉官ノ犯罪ハ該隊ノ

一 志

六

陸軍省

指令

司令官停住ヲ命シ鎮臺ニ送附シ云々然ルニ今等級十等以下ノ者犯罪アリテ之ヲ推究シ其獄詞遂ニ少尉以上相當ノ者ニ牽連スルモハ其事ノ大小ヲ不問猶本犯ト連及者トヲ併セ之ヲ本臺ニ送附可致哉或ハ獄詞ノ連及者ニ限り尉官相當ノ者奏任以上ト雖モ其推問スル所一二ノ小事項ニシテ強ナ糺彈問詰ト稱スルニ足ラス只其事ノ果シテ然ルヤ否ヲサルヤヲ問フ如キ其事由ヲ本臺ニ開列上進スルヲ不待猶推問シ其實懲罰或ハ軍律ニ處セサルヲ得サルニ至リ始テ其事由ヲ上進シ本臺ニ送附致シ如何ニ御座候哉

伺之趣左ノ通可相心得事

第一條 文官十等以上ノ者ハ當分從前之通少

尉試補軍醫試補モ亦同シ

第二條 伺之通

裁判所申渡罰文

元陸軍調馬廐馬丁 高橋音吉

其方儀昨年十一月中調馬廐馬丁相勤居リ官給之毛
布二枚典却候科ニ依リ杖三十錮二十八日申付ル

○二月十九日分

筑摩縣ヨリ伺書寫



漫ニ砲發之儀ハ兼テ御制禁ニ候ヘル軍用銃其他小銃所持之人民自然筒拂或ハ試打等不致候テハ不都合ニモ有之試打等願出候節ハ場所並ニ日限ヲ定メ聞届候テモ不苦儀ニ御座候哉此段相伺候也二月一日追テ舊來各神社祭典等之節花火等獻備候習風モ往々有之候處右等之儀モ願出候ハ、從前之通聞届置可申哉此段モ伺添申候也

指令

伺之趣軍用銃等試發之儀聞届候條其場所地名詳細可届出候事

但追書之儀ハ當省ニ於テ難及指令候事

大阪鎮臺申渡罰文

歩兵第四大隊三番中隊二等卒

須江 求

其方儀本月八日夜脱走之末官給品賣却候科ニ依リ
杖五十放逐申付ル

○二月二十一日分

大阪鎮臺申渡罰文

歩兵第四大隊二番中隊二等卒

永岡 泰藏

其方儀當一月三十日再脱走之末官給品賣却候科ニ
依リ除隊之上徒刑一年申付ル

0326

日 記 二

○ 二月二十三日分

御沙汰書寫

叙從六位

同

一 隱 耳 雀

佐々木忠誠

間宮四郎